７月17日（水）１・３校時　社会科　９年１組・２組　［各HR教室］
指導者　河原　洸亮

１　単元名　現代社会の見方や考え方

２　単元設定の背景

教材観

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編において，「社会的な見方・考え方」は地理的分野・歴史的分野・公民的分野の各分野の特質に応じて示されている。公民的分野については「社会的事象を政治，法，経済などに関わる多様な視点に着目してとらえ，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて」働かされるものとされ，とりわけ「対立と合意，効率と公正」が見方・考え方として提示されている。本単元は公民的分野の導入単元として，「対立と合意，効率と公正」の見方・考え方について理解したうえで，これらを具体的な社会的事象に活用させることを通して，のちの単元へと接続するつなぎとしての役割を持つものである。そこで，公民的分野の学習の見通しをもたせるためにも，次単元の「個人の尊重と法の支配」にかかわる題材を主に取り扱う。

生徒観

本学年の生徒は，ある社会的事象に対する意見交流に積極的である。社会の授業での振り返りでは，「意見交流をすることを通して，自分とは異なる意見や考えをもっている人と話をするのは楽しい」といった記述もみられることから，他者との対話をすることに学ぶ意義を見出していると考えられる。

本単元は公民的分野の導入単元に位置づけられる。前時までの「きまりの目的と意義」の学習では，身の回りにある“きまり”について目的と意義について分析と考察を行った。そこでは，生徒一人一人の個人的な体験や感情，メディアが取り上げる報道の影響を受けた直感的な判断に基づく議論が目立った。そこで，「社会的な見方・考え方」をはたらかせて社会的事象を分析・考察することを通して，自分の判断を根拠に基づいて他者に説明することが今後の課題としてあげられる。

指導観

本単元では，次に示す二つのことを意識して指導を行う。第一に，公民的分野の導入単元として，「対立と合意，効率と公正」の視点を働かせたうえでの判断をさせることである。社会生活における人々の対立状況を克服し，合意に向かうために，効率と公正の視点から妥当性を判断する活動は，のちの「法」「政治」「経済」「国際社会」などの単元でも継続して行うため，そのために視点の獲得と活用の手法をつかませたい。第二に，「他者」の意見を取り入れながら自分の意見の妥当性を省察させる。本単元における「他者」とは，同じ教室で学ぶ生徒を指すが，題材の中に登場する人物である場面もある。自分の判断について，他の学習者はどのような規準を踏まえた判断をしているか，題材に登場する他者はどのような具体的な社会的状況に置かれているか，このようなことを意識させながら判断させる活動を通して，「受容と共感」の態度や，自己や他者とのコミュニケーションを通じて，よりよい解決策を創出するためのレジリエンスを育むことができるのではないか。

３　単元の目標及び計画（全６時間）

■単元の目標

現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして，対立と合意，効率と公正の視点を理解し，獲得した視点に基づいて，現代社会の様々な場面について説明することができる。

■単元の計画

第１次　社会集団で生きる私たち・・・・・・・・・・・・２時間
第２次　きまりの目的と意義・・・・・・・・・・・・・・２時間
第３次　効率と公正・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間（本時２／２）

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代社会の見方・考え方の基礎的な枠組みとして対立と合意，効率と公正について理解している。	対立と合意，効率と公正の視点からさまざまな社会生活の場面を考察し，その様子を他者に向けて表現することができる。	現代社会の見方・考え方を踏まえ，社会生活における対立状況のよりよい解決に向けて，他者と粘り強く対話をしようとしている。

５　本時の学習

■目標　　対立と合意，効率と公正の視点に基づいて，それぞれのカードの場面について「認められるべきちがい」か「認められるべきではないちがい」かを判断し，他者に説明するとともに，自分の意見や考えを吟味することができる。

■「受容と共感を促す手立て」

子供の受容と共感を促すために，人によって判断の過程や結果が異なる題材を取り上げ，それについて個人での判断の場面や他の人の判断の様子について交流する場面を設定し，判断を修正・吟味する場面を設定する。

■学習過程　※（全）（小）（個）：学習形態（全：全体の場　小：小集団　個：個人）㊟：留意点　㊥：評価の観点（方法）

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
１．学習課題への接近	（１）教師が提示する事例について自分の立場を明らかにする。 ・そのちがいは認められるべきではない。 ・そのちがいはあっても認められるべき。	（１）前時の学習内容にもふれながら，人によって判断の結果や判断に至る過程が異なることに気づかせる。	（全） 前時の学習内容も踏まえ，本時の問題意識を共有する。
２．学習課題の設定	（２）本時の学習課題を設定する。 その“ちがい”は認められるべきだろうか？	（２）本時では，対立の状況から合意を実現するために，効率と公正の視点を踏まえて他者に説明することを確認する。	（全） 全体で本時の学習課題を確認する。
３．学習課題の追求 （自身の学習活動）	（３）それぞれのカードについて，個人で３つに分類する。 ・認められるべきちがい ・認められるべきではないちがい ・判断に迷うもの	（３）ワークシートに個人の考えを書かせる。交流活動に向けて，判断の結果と理由を説明することができるように準備をさせる。	（個） 個人で考えまとめる。
（他者との交流学習）	（４）班の中で個人が取り組んだ成果を発表する。また，意見が同じだったもの，意見がちがっていたものを分類し，なぜ違いが生まれたかについて議論する。 （５）班での意見交流を経て，自分の考えの変化の様子をワークシートにまとめる。	（４）自分や相手の判断を尊重するように声掛けを行い，班の中で意見の違いに気が付かせる。 ㊥自分の判断の結果や過程を効率と公正の視点から他者に説明することができる（発言・ワークシート） ㊟ワークシートに自分の考えの変化の様子（判断の結果が変わった，判断の結果は変わらなかった，判断の結果は変わらなくても理由付けが変わったなど）を振り返らせる。	（個）→（小） 個人でまとめたワークシートの内容を班や全体で共有する。
４．本時のまとめと次時への発展	（６）本時の振り返りを行い，今後の学習へつなげる。 ・対立と合意，効率と公正を意識していくことで，社会の解決すべき問題や解決策を考えることができる。	（６）夏休み明けには本時のカードの中身に関連する日本国憲法で保障される権利について学習することを伝え，本時以降の学習の見通しをもたせる。	（小）→（全） 本時の成果等を班や全体で共有する。

公民学習プリント

（　　）組（　　）番　名前（　　）

【学習課題】

(1)９枚のカードのちがいについて、「効率」と「公正」の視点をふまえて「ちがい」を分類してみよう。

効率	お金や時間，労力，ものなどが無駄になっていないか？ 社会全体でより大きな成果を得るものになっているか？
公正	一部の人が不当に扱われていないだろうか？

	カード番号	分類した時の基準や理由
あってもよいちがい		
あってはならないちがい		
判断が難しいちがい		

⑵班の人との交流を通して、他の人と意見が同じだったところ、意見が違ったところをまとめてみよう。

	カード番号	意見が同じだった理由/意見が違っていた理由
意見が同じだったところ		
意見がちがったところ		

⑶プリントの左側にまとめた最初の分類について、他の人との交流を通して、考えが変わったものを「赤ペン」で、考えが変わらなかったものを「青ペン」で示そう。その理由も書き込んでおきましょう。

⑷他の人との交流を通して、自分の意見や考えはどのように変わりましたか？「効率」と「公正」の視点を踏まえてまとめてみましょう。

カード１

国民が選んだ代表者が物事を決めている国もあれば、国王が一人で決めている国もある。

カード２

イスラーム教徒は豚肉を食べない。ヒンドゥー教徒は牛肉をたべない。

カード３

国の政治に対して批判的な新聞や雑誌を販売禁止にする国もあれば、自由な国もある。

カード４

刑務所の囚人は高いお金を支払うことで、いい部屋にグレードアップすることができる。

カード５

保育士の募集の求人広告に「女性のみ」と書いてあった。

カード６

インターネット上で個人情報は守られるべきだが、芸能人はファンのために公開されても仕方ない。

カード７

少子化対策として子育て世帯に支援金を配るが、他の世帯には配らない。

カード８

あるレストランはペットを連れて入れないが、介助犬は連れて入ることができる。

カード９

高層マンションに住む人は日当たりがよく、その隣の家は一日中、日光が当たらない。